俳句

大津俳句会

草陰を出てすぐ返す梅雨の蝶　井芹眞一郎

母の日の電話の向かう夕餉時　秋山　恵子

かばかりの風に南天花こぼす　市原　初女

坂道を癒す香りの忍冬（すいかずら）　大塚喜久子

囀の零（こぼ）してをりぬ日の光　佐賀　久子

わづかなる風もとらへて柳絮飛ぶ　松尾　昭雅

大空といふかくれ場所揚雲雀　岡崎　浩子

昨夜雨に薔薇の香ともに崩れけり　森山美穂子

更衣通勤バスの軽快に　佐澤　俊子

俳句

つのはな句会

木洩れ日の中の絨毯（じゅうたん）　山吹草　水野　春子

青葉風　過去からの手紙よんでいる　梅木トキエ

菜種梅雨誰も座らない庭の椅子　塚本　洋子

風薫る縄文人も耳輪して　榮田しのぶ

切札はなきか不眠の青葉木菟（あおばずく）　志賀　孝子

夜の新樹モナリザの眉淡（うす）きかな　田上　公代

懐（なつ）メロの行商走る峡（カイ）五月　木庭　杏子

蝸牛（かたつむり）深き眠りの父の庭　上杉　波

新緑の一葉一葉にある秘密　矢嶋　道子

俳句

大津短歌会

夜の闇を飲み込む様にバイク音やがて微かな音ひき消ゆる　坂本　杲子

山あいの墓地に流るる読経に調子合わせて鶯の鳴く　鞍　岳志

億劫さ今日一日を穏やかに刻の過ぎゆく哀しき嫗　管野　静

盛られたる土の最中に一株の主の如く犬ふぐり咲く　豊岡ミツル

立ち登る朝靄の中鷺一羽声ひくくして飛び立つが見ゆ　吉永　恵子

日々歩く道辺にして今年また椿に会いたり紅き椿に　小平　善行